

2014. 9. 15.

(1)

# おひらき図書館

No. 171

発行  
おひらき図書館  
代表  
青木 和子  
松本市牧の原1-10-416  
TEL 047-311-0886

△7月27日(回)～29日(日)△  
鳥取県の図書館見学

報告 青木和子

「第20回鳥取県図書館大会」が28日に倉吉市で開催されました。主催は鳥取県図書館協会、共催は鳥取県立図書館、鳥取県公共図書館協議会、鳥取県学校図書館協議会、後援は(社)日本図書館協会です。このラインアップを見ただけで、鳥取県の図書館の状況が分かる気がしました。

私達は前日に鳥取市到着。まず鳥取県立図書館を見学しました。片山前知事のもとで、鳥取県の図書館が目覚ましい発展を遂げた

のは周知の事実ですが、実際に訪れて自分の目で見て感じるこの大切さを、今回も実感しました。

青藤明彦氏(元鳥取県立図書館長)と小林隆志氏(鳥取県立図書館支援協力課長)のお話を伺った後、小林氏の案内で館内を見学しました。

現在の鳥取県立図書館は、1990年(H.2年)開館。鉄筋コンクリート造、地下1階地上2階、延べ床面積86%・34㎡。

●鳥取県立図書館の目指す図書館像  
●県民に役立ち、地域に貢献する図書館  
●それを実現する為の3つの柱

- ① 仕事と暮らしに役立つ図書館
- ② 人の成長・学びを支える図書館
- ③ 鳥取県の文化を育む図書館

1階は一般図書室、児童図書室など。2階は郷土資料室、環日本海交流室、研修室など。地下は書庫、市町村貸出室など。

### 一般図書室

一般資料、参考図書、新聞(日分)、雑誌、大活字本、録音資料、調査用探求(インターネット用、データベース検索用)、CD-ROM用、蔵書検索用、ビジネスヒント調査コーナー、働く気持応援コーナー、医療健康情報コーナー、闘病記文庫、法律情報コーナー、いきいきライフ応援(高令者サービス)コーナー、はくとふるさサービス(障害者サービス)コーナー、ドリウムティーンズコーナー

○児童図書室

児童図書、絵本、新聞、雑誌、調査用探求（蔵書検索用）、子ども読書応援ルーム（学校図書館応援コーナー、子ども読書応援コーナー、新刊児童図書）、子育て応援コーナー、  
〔定例行事〕

○郷土資料室

郷土資料（鳥取県関係の資料、県内発行雑誌、県公報、官報、新聞（前日以前）、全国電話帳、外国語図書（英・仏・独・語算）、地形図、鳥、紙コレクション、調査用探求（インターネット用、蔵書検索用、CD-ROM用）、映像・視聴ブラス、録音資料（一部貸出可）、ふるさと鳥取コーナー（ふる

さと情報、ふるさと文学、ふるさと人物、まんが王国とつとろ）、ハンセン病コーナー、特別資料展示室、

○環日本海交流室

中国語・ハンガール・ロシア語の図書・雑誌・絵本・新聞、環日本海諸国に関する日本語資料、蔵書検索用探求

○研修室

大研修室、小研修室、ミニ研修室

○図書館入口には「暮らしの困

りごと解決ナビ」の棚が設置され、そのテーマ（相続、成年後見制度、介護、年金、離婚、悪質商法と契約、多重債務、境界問題、交通事故に遭ったとき、起こしたとき、インターネットトラブル、建物賃貸借、不当解雇、セクシャルハラスメント、パワーハラスメント、いじめ、

DV、ストーカー）について、資料

や相談機関の情報などにそれらの本を採す為の館内マップが、それぞれ一枚の紙にまとめられています。同様に、館内の医療情報コーナーには「健康情報調べ方案内」が、病気毎に一枚の紙にまとめたものが置かれています。

この様に、利用者への細やかな配慮が館内の至る所に見られました。現在、県内の図書館に指定管理者制度は導入していませんが、図書館員は「指定管理者制度は導入しない方がよい」と利用者に思われるような仕事をする必要があると言われました。

市町村の図書館や電話やインターネットで予約した県立図書館の本は、地元の図書館で受け取り、返却が出来るようになります。

図書館にとって一番の応援団は書店であり、良い本を速く沢山持って来てくれる書店、然も地元の

本屋から多く買入れるそうです。

県立図書館は市町村の図書館が

買えない本を買うべきだと言われ、

見せて下さった工冊セットの工学

系の本は、驚いたことにそれぞれ

18万7000円と15万5000円でした。

片山前知事の時代、公共図書館

学校図書館共に多くの司書を採用

したそうです。鳥取県と同様に、

かつて武村正義知事時代の滋賀県の

図書館が素晴らしい変革を成し遂げ

たことを思うと、首長の影響力の

大きさを痛感しました。

そして今、小林氏をはじめとし

て、図書館への情熱とエネルギー

に満ちた若い職員がたくましく居ら

れることに、驚きと羨望と明かる

い展望を感じました。

28日には倉吉市立図書館、29日

には大山町立図書館、米子市立図

書館、今井書店を見学しました。

それぞれが県立図書館と連携した

から、地元を大切にしたい良い仕

事をしていると感じましたが、

それは県内すべての図書館の中

心に鳥取県立図書館が存在すべ

ばこそその成果なのだと思得しま

した。



第二回

松本市図書館整備計画

審議会(以下「審議会」)開催

報告 青木和子

8月7日(木) 教育委員会会議

室で開催され、傍聴者は2名で

した。(定員10名)

●検討項目

1. 松本市立図書館の視察について

2. 松本市立図書館の現状と課題

について

3. 提言書について

の本館と子ども読書推進センター

新松戸、常盤平、八柱、和名ヶ谷

の各分館と県立西部図書館の視察

で感じたこと。分館は総じて暗い。

市民センター入口から本に辿り着

くまでのワクワク感に欠ける。最

寄り駅からの道中に誘導のサイン

が無い。テーブル・椅子などの家

具も一考を要する。分館数の多さ

は誇れることだが、ドアや壁面に

ガラスを使うなど明かるくして、

楽しいに読書する姿が外から見え

るようにするなどの工夫が必要。

本館1階エレベーターホールの

勿体ないスペースを活用したい。

貸し倉庫や廃校の転用などで、

書庫を確保すべき。

「図書館は変わった」と、市民

が目で見えて分かる変化が必要。

中堅職員の研修が必要だが、時

間もお金もかかることなので、予

算要求などを早く始める必要あり。  
市立図書館からは日本全国の情

報を、県立図書館からは世界中の  
情報を入手できる。職員が検索し  
て、分館でも情報提供できるよう  
にして欲しい。

○学校現場から見えるもの。子ども  
もの時から図書館を利用しないと、  
「図書館」を知らない大人になる。

学校図書館と公共図書館をオンラ  
インでつなぎ、子どもが「図書館」  
を知ることが大切。学校司書が常  
駐し、教科内容と連携すべきであ  
り、学校図書館はミニ公共図書館  
であってはならない。

今年6月、国会で「学校図書館  
法」が改正され、学校司書の法制  
化がされたことは喜ばしい事だ。

○いまだに娯楽教養路線が主流な  
のは、先進国では日本だけ。

娯楽教養や児童サービスを網羅し  
た上で、情報提供型・課題解決型  
を私戸も目指すべき。

市民のら見た図書館のイメージ  
が、子ども向けと読書に収斂して

いる感があるが、働き盛りの市  
民が魅力を感じて足を運びたく  
なる図書館、各年代に対応でき  
る図書館が必要。

○読書を通じた人の育成、本を  
仲立ちとした地域コミュニティ  
ー再生の場に。

市民が必要としているものを  
捉え、地域のために役立つ図書  
館が必要。

松戸市では、新病院と市立図  
書館の連携を図って欲しい。

○良い図書館に、人は集まる。  
そのためにも職員研修は大切。  
図書館は地域を活性化し「住  
みたい町」づくりに貢献する。

次回「審議会」は、10月16日  
（木）19時、教育委員会会議室で開催。  
皆様の傍聴を、どうぞよろし  
くお願い致します。



教育長と面談しました。

報告 青木和子

8月21日（木）、伊藤教育長との面  
談が実現し、西山さんと伺いました。  
公共図書館や学校図書館につい  
て、ご自身の言葉で語って頂いた  
内容に安堵致しました。  
今後の進展がとて楽しみみです。

社会教育委員会 傍聴

報告 青木和子

8月25日（月）、教育委員会会議室  
で開催され、初めて傍聴しました。  
委員会は福留委員長他10名。当  
日出席は7名でした。

今年度第2回とのことで、図書  
館についても話し合いました。  
図書館の「審議会」と兼務の方  
も居らるので、話題・問題を共  
有できることは何よりと思いました。  
次回の会議は未定です。